

- 宮崎市では、高齢化や相続による所有森林への無関心などにより、手入れ不足の人工林が増えていることから、森林環境譲与税を財源として、森林組合等が実施する森林整備事業の対象とならない森林における間伐を支援。
- 令和2年度は以下の取組により、新たに3.4haの間伐が実施され、森林の有する公益的機能の発揮につながった。
  - 森林経営計画が立っていない森林（林齢36年生以上）における、小面積（5ha以下）の切捨て間伐（間伐率30%以上）に要する経費への補助を行い、3.4haの間伐を支援した。

## □ 事業内容

### 1 間伐等の森林整備への支援（宮崎市間伐推進事業）

- 森林経営計画が作成されていない森林（林齢36年生以上）における、小面積（5ha以下）の切捨て間伐（間伐率30%以上）を対象とした補助を実施。

【事業費】1,230千円（全額譲与税）

【実績】間伐3.4ha



（事業1：間伐前の状況）



（事業1：間伐後の状況）

## □ 事業スキーム

### 1 間伐等の森林整備への支援



## □ 工夫・留意した点

- 事業構築の際、既存の補助事業では対応できていない部分を支援の対象とするよう検討をしたが、新型コロナ対策で森林整備事業の対象が拡大されたことから、事業構築には苦慮した。県の助言をいただきながら、高齢級でありながら手入れがされておらず、山奥で搬出が困難な森林を想定し、強度の間伐を行う事で針広混交林化を目指す事業とした。

## ◇ 基礎データ

①令和2年度譲与額	91,537千円
②私有林人工林面積（※1）	10,183.77ha
③林野率（※2）	54.9%
④人口（※3）	401,138人
⑤林業就業者数（※3）	327人

※1：「森林資源現況調査（林野庁、H29.3.31現在）」より、

※2：「2015農林業センサス」より、※3：「H27年国勢調査」より

- ▶ 宮崎市では、森林環境譲与税の創設を契機に、木材利用や普及啓発活動を通じた市民への森林整備への理解の醸成に取り組んでいく方針。
- ▶ 令和2年度においては、以下の取組により、公共施設にて普及啓発活動を行った。
  - 宮崎市産材を活用し、椿山森林公園の管理棟内に積み木で遊べるスペースを設置したほか、子育て支援センターに積み木を設置した。また、多くの市民が利用する市役所のロビーに木製ベンチを設置した。
  - イベント等で配布するため、宮崎市産材を活用しコースター等を製作し、宮崎少年少女発明クラブのメンバーに配布した。
- ▶ 令和3年度においては、アンケート結果等をもとに、より効果的な取り組みを検討する。

## □ 事業内容

### 1 木運醸成事業

- 宮崎市産材を活用し、市役所をはじめとする公共施設にベンチ、積み木等を設置。また、イベント配布用にコースター等を製作した。
- 利用者アンケートでは34人中27人が森林整備への理解が深まったと回答。また、子ども向けのアンケートについては「森林についてもっと知りたい」「もっと木を触ってみたい」との回答が多かった。

【事業費】1,475千円（全額譲与税）

【実績】ベンチ等設置施設：3か所  
コースター等配布：1か所



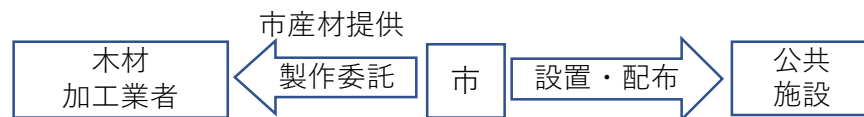
（椿山森林公園管理棟の様子）



（市産材のコースター）

## □ 事業スキーム

### 1 木運醸成事業



## □ 工夫・留意した点

- 単に設置や配布を行うのではなく、普及啓発用看板の設置とアンケートを実施することで、より理解が深めるよう配慮した。アンケートの結果、約8割の市民が木材利用の意義について理解が深まったと回答。
- 新型コロナウイルス感染拡大の影響で各イベントが中止となり、予定していた配布ができなくなったため、関係施設に打診し、宮崎少年少女発明クラブのメンバーに配布するなど、柔軟に対応した。

## ◇ 基礎データ

①令和2年度譲与額	91,537千円
②私有林人工林面積（※1）	10,183.77ha
③林野率（※2）	54.9%
④人口（※3）	401,138人
⑤林業就業者数（※3）	327人

※1：「森林資源現況調査（林野庁、H29.3.31現在）」より、

※2：「2015農林業センサス」より、※3：「H27年国勢調査」より